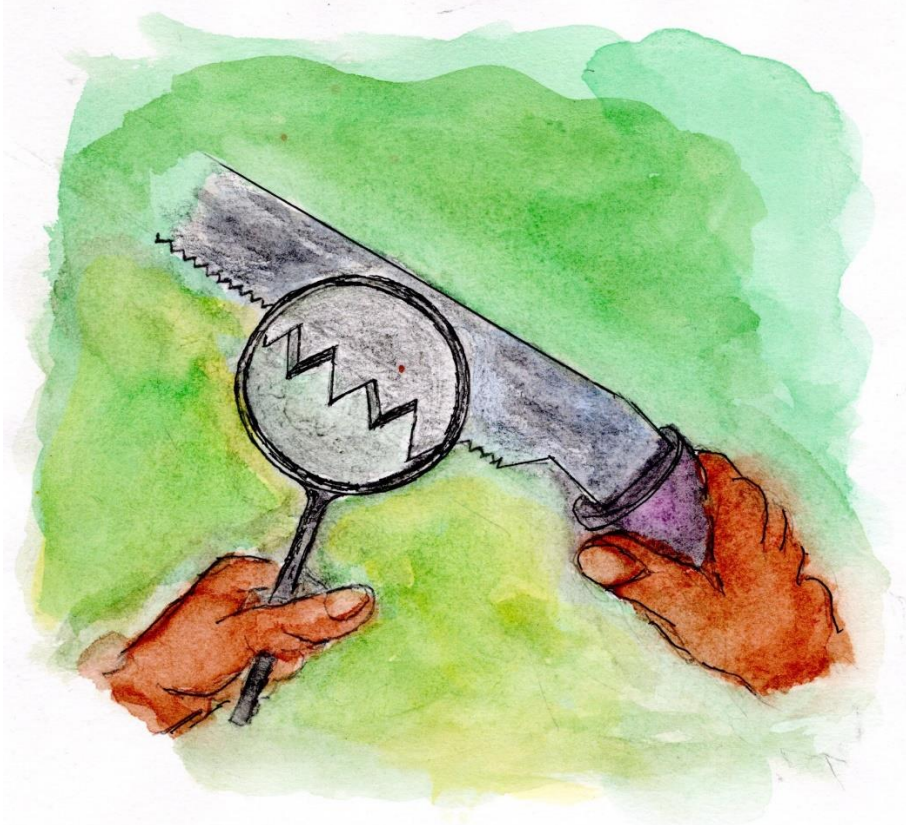


吹田の郷

発行/NPO 法人すいた市民環境会議 会長/小田忠文 ホームページ<http://www3.big.or.jp/~sskk/sskk.htm> 設立/1997年3月15日
事務局/〒564-0062 大阪府吹田市垂水町3丁目8-28-106 中村小夜子 TEL/090-8375-0647 FAX/06-6386-9491 編集/会報委員会
年会費/正会員(個人・団体)1,000円、正会員(法人)10,000円、購読会員1,000円、賛助会員10,000円 郵便振込口座番号/00980-3-28845



目次

1. 表紙「あさり」
2. 会長コラムと表紙の絵説明
3. 自然エネルギーすいた (SES) ニュース
吹田ぷくぷく市民共同発電所 2022 年実績
4. 生きもの委員会ニュース
・吹田市で最も背の高い木が伐採
・「レッドリストすいた」A ランク種
イヌノフグリ・ヒキノカサ
6. 生活環境委員会ニュース
環境会議のエコクッキング①
7. すいた環境教育フェスタ 2023 開催
8. 吹田くawaii物語
吹田くawaii交流会 @浜屋敷
10. 知床あれこれ
100 平方メートル運動の森・トラスト
11. 古民家あれこれ
美山かやぶきの里を訪ねて
12. 関連イベントのお知らせ
・事務局よりお知らせ 総会案内など
・新しいパンフレットができました！！
・まちなみ散策会のご案内

春夏秋冬

会長 小田忠文

コロナ禍の3年間でSDGsという文字を見る機会が増えてきました。そして昨年からは吹田市が発行した「すいたの自然2021」にも書かれているOECMという文字をちらほら見かけるようになってきました。ここに至る半世紀の歴史をふりかえってみます。その始まりは1972年に国連が人間環境宣言（ストックホルム宣言）をしたことでした。環境に関する権利と義務、天然資源保護、野生生物保護、海洋汚染防止、そして開発促進と援助などを目標に掲げました。20年後の1992年リオデジャネイロの地球サミットでは温暖化や環境問題を人類共通の課題と位置づけ、「持続可能な開発」という理念を提示しました。▲それから18年後の2010年名古屋市で開かれた第10回生物多様性条約締約国会議（COP10）で愛知目標を採択しました。愛知目標には10年後の2020年に「生物多様性の価値及び行動を、人々が認識する。」とか「農業、養殖業、林業が生物多様性を保全している。」「生態系の健全性と機能が維持される。」「締約国が生物多様性国家戦略及び行動計画を実施している。」など20のゴールが書かれていました。2015年には国連サミットでSDGsの概念を全会一致で採択して取り組みを進めました。しかし2020年に愛知目標を達成できた締約国はゼロでした。逆に気候変動の振れ幅は大きくなり、絶滅する生物の種は増え続けています。▲昨年12月カナダ・モントリオールで開かれたCOP15では、2030年までの新たな国際目標「ポスト2020枠組み・30by30（サーティバイサーティ）」を採択しました。それは「陸域と海域の30%ずつを2030年までに保護区にする。」という国際目標です。日本

はCOP15に先立って昨年のG7サミットで、この目標の達成を約束しました。そのため日本政府は昨年4月に「生物多様性のための30by30アライアンス」という有志連合をよびかけたところ今年2月現在自治体、企業、NPOなど366団体が名乗りを上げています。目標の30%に対し日本の現状は陸域の20.5%、海域の13.3%が保護地域となっているので陸域ではあと9.5%必要です。これは三重県を含む近畿地方よりも少し広い面積に相当します。▲国立公園などの網がかかっている保護区を増やす手段として文頭で触れたOECM（Other Effective area based Conservation Measures 公的な保護地域以外で生物多様性保全に資する地域）が期待されています。対象地としては、田んぼや里地里山のように人の営みによる結果として自然が守られている場所、寺や神社、企業が所有する山林や緑地、緑化されたビルの屋上や工場敷地など、そしてみどりや水辺のある都市公園なども想定されます。候補地がOECMとして世界的に認定される条件は土地の範囲や管理体制、生物多様性（生態系サービス）の価値が明確で、継続的なモニタリングをおこなっている場所です。▲吹田市を見たとき、紫金山公園では2003年から日本自然保護協会主催のモニタリング1000里地調査に参加してデータの蓄積があり、2000年から市民が里山管理を続けています。千里第4緑地では1998年から四半世紀におよぶヒメボタルの発光調査のデータや緑地の清掃活動の歴史があります。市域全体では10年ごとの大木調査のデータがあり、吹田市も「すいたの自然2001」「すいたの自然2021」を発行してデータを積み重ねています。市内の数か所が世界に登録できるOECMの条件を備えているように思うのですが、いかがでしょうか。近畿地方では2月現在阪南市・神戸市・豊岡市・丹波篠山市・和歌山県が30by30有志連合に名乗りを上げています。

<表紙の絵>

思い出の原風景シリーズ（16）

「あさり」

「ノコギリは“アサリ”で切れる」と云えば何のこと？と問い返されそうだが、あのギザギザしたノコギリには仕掛けがあって、それを「アサリ」と云うが、広辞苑には載ってない。

包丁や鎌などの刃物の切れ味は、「研ぐ」ことによって維持できる。ノコギリも「アサリ」を研ぐと、切れ味がよくなるが、それを「ノコギリ」の「目立て」と云い、かつては「目立て」を生業にした「目立て屋」があったが、今では、切れなくなった刃は「替刃」として取り換えられ「目立て屋」は廃れてしまった。

（表紙の絵と文：生きもの委員 塩田 敏治）



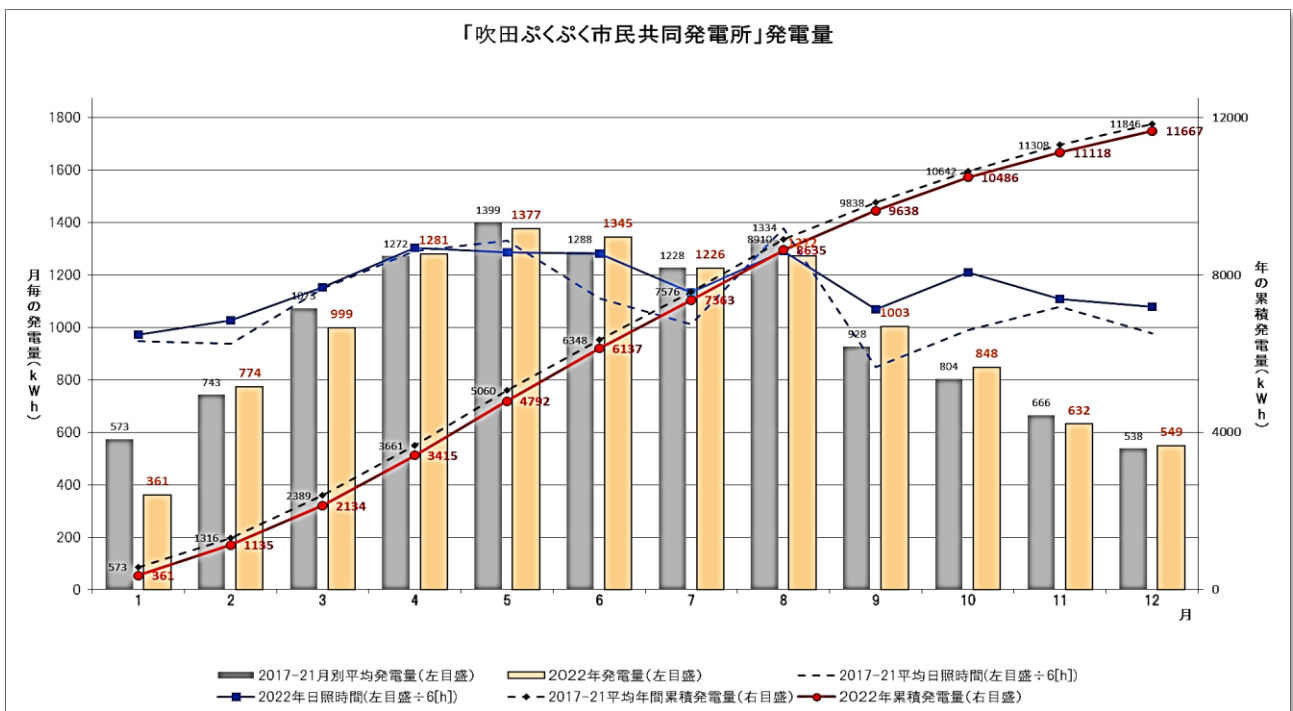
吹田ぷくぷく市民共同発電所 2022 年実績

吹田ぷくぷく市民共同発電所は、2017年1月の発電開始以来、丸6年が経過しました。今回は、2022年の年間発電実績を報告します。

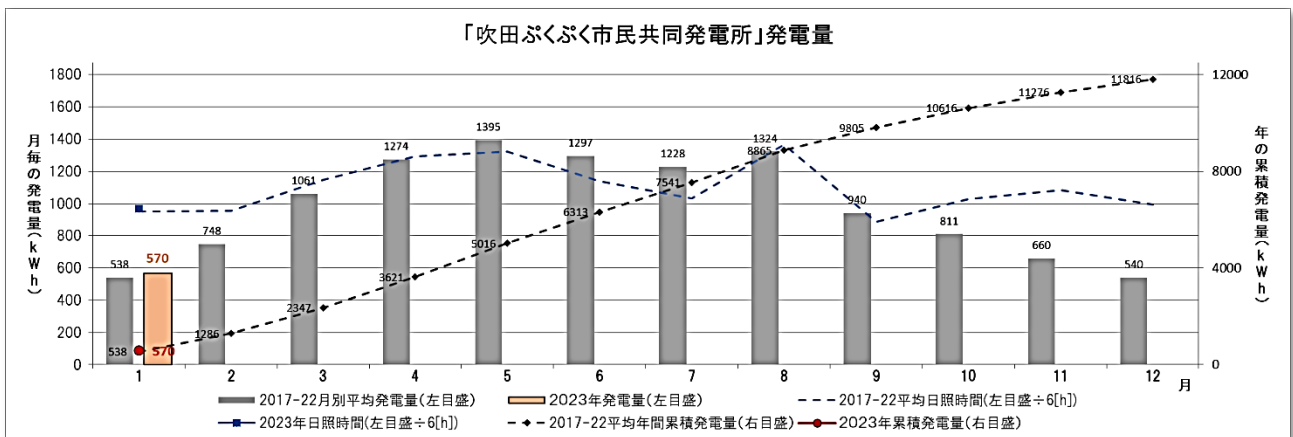
2022年の年間発電量合計は11,667kWhでした。2017～2021の過去5年平均が11,846kWhでしたので、それより若干少ないですが、ほぼ例年並みでした。また、2022年の日照時間(気象庁による大阪のデータ)は、過去5平均に比べて6.6%程度長かった(昨年2,320h/過去平均2,176h)ため、日照時間当たりの発電量としては低下しました。結果的に、2022年は全般的に天候が良く、それに助けられました。毎月の状況を確認すると、9月と10月は天候が良く、発電量が例年を大きく上回りました。

逆に1月と3月の日照時間は例年並みでしたが、発電量としては低めでした。その他は、ほぼ例年並みでした。

ちなみに、吹田ぷくぷく市民共同発電所では、2022年の太陽光による発電量のうち8割程度を設置場所にて自家消費しました。残りは売電です。通常、一般住宅用で自家消費率3割程度ですので、この数字はかなり大きい方です。なるべく多く自家消費できる方が、エネルギーの地産地消に効果的です。これは望ましい結果です。



吹田ぷくぷく市民共同発電所の2023年1月発電概況は以下の通りです。
 (今回から過去平均値が2017～2022の6年間の平均値となっています。)
 1月概況:日照時間が対過去平均値約102%、発電量が約106%と微増でした。



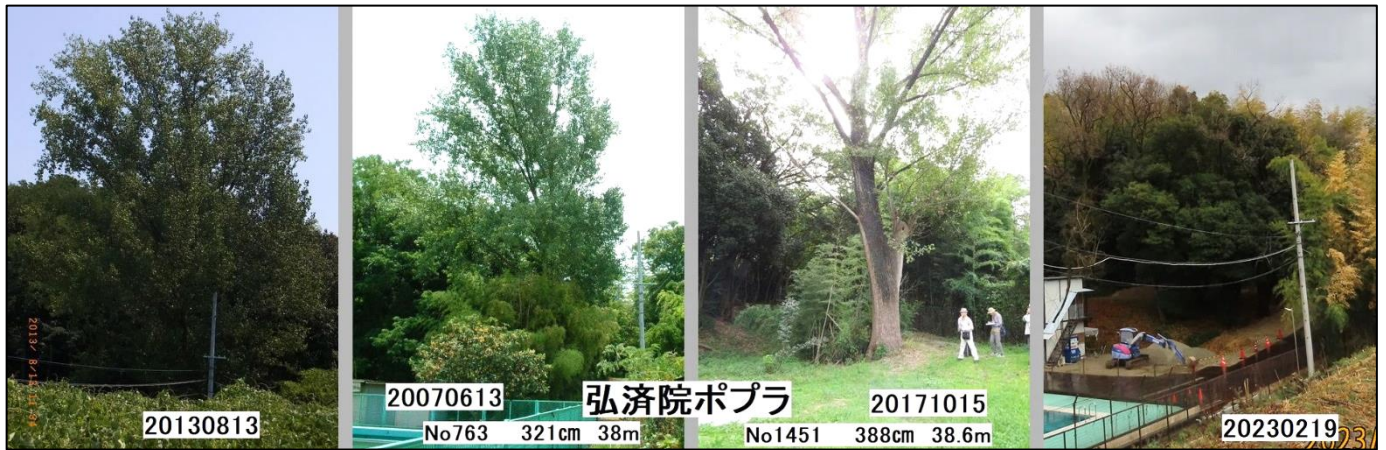
1. 古江台6、弘済院小中学校グランド南側のポプラ伐採(跡形無し)

吹田市の大木調査は1997年、2007年、2017年と3回実施してきたが、この調査で常に背の高い木としてランクしていた木は、古江台6丁目、弘済院小中学校のグランド南東側にあるポプラ(カリナポプラ)であった。

	No	樹種	樹高	幹周	当時の順位
1997年	344	ポプラ	33.5	268	2位
2007年	763	ポプラ	38	321	1位
2017年	1451	ポプラ	38.6	388	1位

今回2/19に、その弘済院小中学校のポプラが切られて、跡形無しになっていることを確認した。

1997年調査では樹高33.5mで樹高第2位、樹高1位は33.6mの北千里公園ポプラ(2007年以降実存せず)であったが、当時は測定者～調査木間の距離と木の天辺への角度から測定・計算した樹高であり、「m単位以下」の精度はほとんどなかったと思われる。2007年、2017年は弘済院小中学校のポプラが樹高トップで、特に2017年はレーザー式測定器を使用しているため、精度は高く、38.6mは間違いなかった。



吹田市内を含めた大阪近郊は2017年、2018年と2年続いた台風直撃で、樹高の高い木に倒木・幹折れが集中的に発生したことから、公園などの樹木管理が大きく変化した。ポプラは背が高くなる木のため、台風通過時に葉が多いと風圧を受けやすく、幹が倒れ・折れが発生しやすく、樹高10m程度で幹を切断されるケースが増えている。今回、上記両台風でも倒れなかったポプラが伐採された、残念な事例になるが、弘済中学校の増築工事等のためとのこと、やむを得ないことである。

最近、2023年度吹田市予算案が決定したが、事業項目の中に「小中学校、保育所などにある危険な樹木への対応」として4751万円計上されたとのこと、これまで大木調査を続けてきたこともあり、内容が気になるので、確認する予定である。

2. 津雲台7、公益社会館前・歩道のクスノキ伐採(切株あり)

津雲台7丁目、公益社会館前・歩道の街路樹クスノキは、2017年調査時で幹周り250cmの大木として記録されていた。1/29尾方により、このクスノキが伐採されていることがわかった。

クスノキは歩道の建物側ではなく道路側にあり、問題はないと思われるが、左写真の通り太くなったことで、根回りが道路側にはみ出しそうであり、事故予防を含めてフェンスの高さで切られたと思われる。



1. 南千里イヌノフグリ 「レッドリストすいた 2021」で吹田市では絶滅した種としていたイヌノフグリを昨年(2022/4/2)近畿植物同好会植村修二氏が南千里で見つけられた。今年は芽生え時を確認したいと時々さがしてきたが、2/9 にイヌノフグリと思われる種の幼苗がマンション花壇に、近くの石垣には花も咲いていた。武田先生に写真を確認してもらった結果、「イヌノフグリに間違いなし」と判定していただいたので、2/18 には南千里ラコルタで会議後のすいた市民環境会議理事の方々に、現地を見ていただいた。

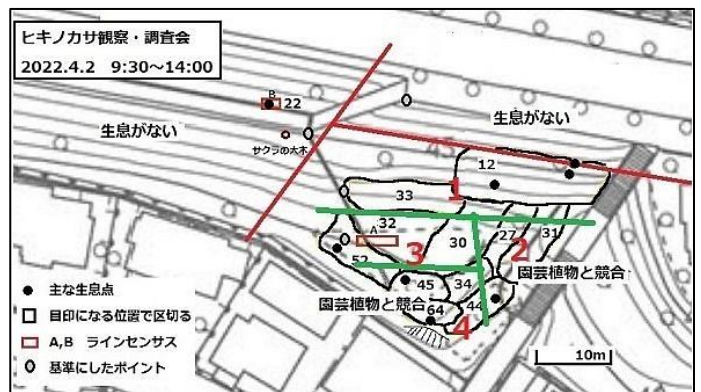


2/19 の状況は写真通りで、花壇にはマンション管理人さんによる去年の立て札「雑草を抜かないで」が、そのまま健在していた。今はまだ株数が少ないが、花壇にはイヌノフグリの子葉と思われる新芽も見えるので、当面定期的に観察を続け、花の最盛期には株数調査をしたいと思っている。

そして現在改定中の「レッドリストすいた 2023」にはAランク種としてリストアップする予定である。

2. 佐竹台 ヒキノカサ ヒキノカサは「レッドリストすいた 2021」作成中に絶滅危惧種とわかった種、昨年の調査で右図の範囲に 400 株以上あり、この場所が改変されない限り絶滅の心配はないとわかった。

昨年は全量調査を実施したが、思いのほか範囲が広く、斜面もあり、個体数が多く、時間がかかった。尾方より今年は調査範囲を右図緑線のように、斜面と平面、花壇の植栽の切れ目で線を引いて4ブロック化し、その中の生息数を調べることを提案があったので下記4/1 予定の調査・観察会で実施したい。



3. 「レッドリストすいた 2023」版作成について

1/29 武田義明先生より、「レッドリストすいた」について、2021 版以降の新しく得られた情報をもとに改定を行うとともに、生態系に大きな影響を与える生物を「ブラックリスト」として加えた改定版(案)提案された。土生陽子氏による表紙・裏表紙についても改定案が作成されており、2023 年 3 月 31 日付で発行予定である。

「イヌノフグリ・ヒキノカサ観察・調査会」開催

一年ぶりに南千里及び佐竹台の希少植物観察・調査会です。南千里駅周辺でイヌノフグリ・イヌナズナ、外来種シロイヌナズナを観察後佐竹台に移動、ヒキノカサの観察・調査会を実施します。時間があれば、芽生えたばかりのギンランを観察する予定です。

日時 2023 年 4 月 1 日(土) 9:00~12:30
集合 9:00 阪急南千里駅改札口前
解散 12:30 頃 阪急南千里駅付近の予定
申込 g-hira@nifty.com、 ☎090-6901-1425(平軍二)



(ヒキノカサ)

環境会議の エコ・クッキング①

生活環境委員会
喜田久美子

●はじめに

2020年2月、佐井寺中学校で全学年600人と17回にわたり実施していた「エコ・クッキング」*が最終日を迎えていました。コロナという悪い病気が流行り始めているとのことで、マスクをしての調理実習でした。それから3年、コロナ禍によって、この活動の紹介をすることはあっても、調理を伴う講座は実施できていません。

生活環境委員会では、この環境会議の「エコ・クッキング」の活動をまとめ、できれば次につなげていきたい、という思いを持ち続けてきました。生活環境委員で分担し、シリーズで紹介していく予定です。*「エコ・クッキング」は、東京ガス㈱の登録商標です。

●「食」を通して行動を変える

1997年、環境会議の設立当時、地球温暖化が問題となっていました。生活環境委員会では新しいライフスタイルを確立しようとして、2001年11月から2003年10月にかけて「家庭の環境マネジメント」(環境家計簿)に取り組んでいました。それらの活動で得た環境に配慮した行動を、生活の重要な場面である「食」を通して組み立てたものが環境会議のエコ・クッキングです。食材の購入・保存・調理から廃棄、後始末にいたるすべての場面で環境に配慮した行動を考え、体験してみると

関大生対象のプログラム 2013年2月23日実施

11:00	あいさつ、スタッフ紹介 きょうのプログラム メニュー、買い物のポイント	本日のメニュー ホワイトシチュー サラダ 菜飯 マスコバド糖プリン
11:10	買い物	
11:50	購入品の確認 調理説明 レシピ 水量実験 ごみ減量のためコンテストの方法 保温調理の方法	
12:05	調理 ①シチューをつくる ②プリンをつくる ③サラダをつくる ④菜飯の準備	
12:50	エコクッキングのポイント バターベスト チェックリスト	
13:10	試食準備 いただきますの話 試食	
13:45	片付け 洗い方	
14:05	アンケート記入・集合写真	
14:15	解散	

いうもの。それは誰でも、簡単に、楽しく、すぐに自分の生活で実行できるというのがこの活動のポイントとなっています。

2003年1月には「楽しく学んで得する環境講座」の一講座として「作ってみよう エコクッキング」を実施しました。その後2004年6月から12月には、大阪府下の小学校5校9クラスで「エコ・エコ・クッキング」を実施、子どもたちが楽しんでできる講座をめざしました。

プログラムは、「食」の観点から主に温暖化について学び、自分の生活をチェックし、環境に配慮した行動に気づくことを主としています。さらに添加物について考え、ソーセージやハムの食べ比べをしたり、スイタクワイの試食をしたり、参加者や状況に合わせて工夫を重ねてきました。2006年からはみどりのカーテン講座に関連して、収穫したゴーヤを利用した講座も実施してきました。

2013年には大学生対象の講座をきっかけに、実際に食材の購入をしながら環境に配慮した行動を考えるプログラムも始めました。また、テーブル対抗のごみ減量コンテストなども取り入れ、楽しい賑やかな講座となってきました。

メニュー例としては、保温調理(省エネルギーの調理法)によるシチューやポトフ、ゆで豚など。小学生にはカレーなど。デザートとしては、フェアトレードを紹介し、その砂糖を使ったマスコバド糖プリンを作るのが定番となっています。講座の目的が、「環境に配慮した行動の獲得」なので、メニューは簡単なものが多いのですが、保温調理のほっこりとしたおいしさは格別です。

(次号へ続く)



関大生とエコ・クッキング 2012年2月25日

すいた環境教育フェスタ 2023 開催

「すいた環境教育フェスタ 2023」が2月5日(日)メイシアターで開催されました。2020年以来の対面での開催です。

今回も昨年10月から、市内で環境活動を展開する19団体が運営委員会を結成し、企画や運営について話し合ってきました。

久しぶりの開催でもあり、いつもなら同時開催の小学生の環境学習発表会が動画や、壁新聞での発表などに変更になったので、子どもたちの参加が少ないのではと心配していました。でも、朝からたくさん家族連れが来場！会場全体では800人を超えていたかも。賑やかで忙しい一日となりました。

フェスタ担当 喜田久美子

すいた環境教育フェスタ 2023 入場無料

日時: 令和5年2月5日(日) 10:30~15:30
会場: メイシアター (吹田文化会館)
JR吹田駅徒歩15分・阪急吹田駅前

環境問題に対して、私たちができることは何だろうか？環境について楽しく学習しよう！

①リユースおもちゃ広場
②環境にやさしい車 大集合!
③環境に関するクイズラリー
④エコドライブ体験
⑤絵画コーナー
⑥名前当てクイズ

主催: 吹田市
問合せ先: 環境部環境政策室 TEL 06-6384-1782
Email: env-keihatsu@city.suita.osaka.jp



環境会議は「守りたい吹田のいきものたち」と題して、『レッドリストすいた2021』と、そこで取り上げたいきものを紹介し、生物多様性を守るためにはどうしたらいいか、みなさんとともに考えました。また、「希少種の名前当てクイズ」を実施しました。

▲へえ！知らなかった、見てみたい！対面での説明は楽しい。



▲ヒントもいっぱい。親子で名前当てクイズに挑戦。クイズには70人が参加してくれました。

スペシャル企画の「リユースおもちゃ広場」では不要になったプラレールを集めて、子どもたちに大変な人気。リユースにもなるいい企画でした。▶

いずみの園公園では、国内外のメーカーの電気自動車などをずらっと展示し関心を集めていました。ボルボの電気自動車は700万円で購入するそうですが…▼



◀「市長、生物多様性地域戦略をつくりましょう！」と後藤市長にレッドリスト冊子について説明する小田会長と武田先生。



団体の企画はWEB上でも見ることができます
オンライン特設ページは
[こちら▶](#)



吹田くわい物語

吹田くわい交流会 @ 浜屋敷

吹田くわい保存会 小田 忠文

2012年、吹田くわいを愛する有志数人が「吹田くわい交流会」という場を設けたのを皮切りに、吹田くわいに関心のある人の輪は年々広がり、単に吹田くわいだけにとどまらず、なにわの伝統野菜に関心のある人たちが集まる一つのイベントになっていきました。

交流会は2021年を除いて毎年開かれ、12回目が今年1月21日に浜屋敷でありました。

私が所属する「吹田くわい保存会」や「吹田くわいを学ぼう会」の会員をはじめ、第5中学校の先生、一般社団法人大阪産(株)・食のマイクロツーリズム推進協議会の会員、大阪市エコボランティアのみなさんなど25人が集まりました。

午前中は浜屋敷の蔵(ギャラリー)で花むらてんさんから吹田くわいのお話を聞かせてもらいました。



【花むらてんさんの吹田くわいばなし】

正午から一部の人は第5中学生の生徒とともに、生徒がバケツで育てた吹田くわいを高浜神社に奉納する行事に参列しました。



【高浜神社に奉納した吹田くわい】

昼食は JR 吹田駅近くにある日本料理のじょう崎(城崎)の、クワイが入ったおこわと本通り商店街にあるサンスーシのフランス料理弁当でした。

両方合わせると10個ちかくの吹田くわいが散りばめられていました。弁当にはたっぷり吹田くわい甘煮が詰まっている超レアなスイーツポテトが入っていました。

その素材は吹田くわいを学ぼう会が旭街商店街のビル屋上で今年育てたものが使われました。



【吹田くわいたっぷりの昼食】

午後からは2020年におこなわれた吹田市制80周年記念事業のコンクールで最優秀賞を得た紙芝居や、同特別賞の吹田くわい音頭にあわせた盆踊りの振付け指導がありました。



【コンクールで最優秀賞の紙芝居】

【吹田くわい音頭「なにかい踊り」】



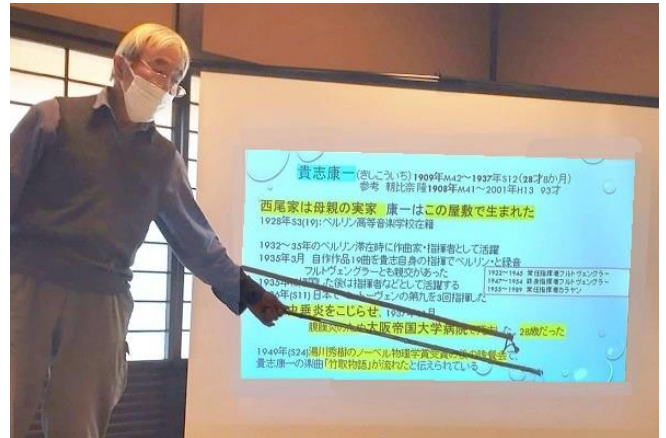
そのあと参加者が自己紹介して吹田くわいや大阪特産野菜をめぐって意見交換で打ちとけ合い、交流会は最高潮となりました。

自己紹介の余録として、趣味で手づくりのせんべいを作っている人が市役所東の地下通路に描かれている吹田の渡しの絵とそのセリフを焼印した直径 12cm の煎餅を参加者に配っていただきました。



【吹田の渡しを描いたせんべい】

最後の演目は私が「西尾家住宅保存活動と牧野富太郎」というテーマで庄屋屋敷だった西尾家の物的、社会的価値を説明し、吹田くわいを命名した牧野富太郎と西尾家第 12 代当主との関係など国の重要文化財の西尾家住宅を紹介しました。



【西尾家住宅の説明】

吹田市の名産、なにわの伝統野菜「吹田くわい」



「吹田くわい」は、一般的なくわいより小粒で、甘味のあるのが特徴。

昔は川辺や田んぼに自然のまま生えていた。江戸時代から明治維新まで 200 年近くの間、京都御所へ献上されていたほどの野菜。

「吹田くわい交流会」は広く吹田くわいを知ってもらうことがお主な目的で、その手段として食べ物を通じて広く交流していこうとしています。

そのため食事代が含まれるので会費が少し高いですが（今回¥3800）めったに口にできない大阪の貴重な文化を味わえるととても貴重なイベントでした。



吹田市のイメージキャラクター「すいたん」▲

知床あれこれ

理事 小田信子

すいた市民環境会議の会報に知床のできごとを書き始めたのは、会報作成に当たって「空きスペースが出るので誰か何か書いて」との要望があり、たまたま、1980年から「知床100平方メートル運動」の推進にかかわってきたので、環境問題に関心を持ち、自然を守ることの大切さを知っている環境会議の会員の方々に、知床半島で開拓農地跡を自然に戻す努力を続けている「知床100平方メートル運動」の状況を知っていただきたい、知床の魅力も知ってもらいたいと思ってのことです。改めて、知床100平方メートル運動のことを説明します。

イギリスには19世紀末に、3人の市民が始めた歴史的に重要な建物や土地(海岸線を含む)を買い取り保全する会「ザ・ナショナル・トラスト」があります。今、日本では保全の必要がある自然や建築物を市民がお金を出し合って買い取り、保全する動きを「ナショナル・トラスト運動」と呼んでいます。多くの人々が少しずつお金を出し合うことで、守らなければならない大切なものがあるのだと多くの人々に、分かってもらえる仕組みです。(今はクラウドファンディングですかね)

そんなシステムがあることを知った斜里町の当時の町長が知床半島の中にある離農跡地を元農民から買い取り、開発から守り、原生林に戻したいと1977年から「100平方メートル運動」を始めました。100平方メートルを1口8000円で買い取ったと思う、心の地主になりませんかというもので「知床で夢を」と謳って呼びかけました。

100平方メートル運動ハウス(1986年完成)



1980年代は運動ハウス屋外に参加者の名札を掲げていた

1979年に朝日新聞が天声人語で「100平方メートル運動」を紹介して全国的な動きになりました。さらに関東と関西でこの運動を推進する仲間を募集し、100平方メートル運動推進関東支部、100平方メートル運動関西支部ができました。

斜里町では集まった寄付金で少しずつ土地を買い取り、植樹を始めました。1997年にはのべ参加人数4万9千人、寄付金額は予定の5億2千万円となりましたが、地主との買取交渉に時間がかかったため、やっと2010年に全ての土地の買い取りをすることができました。

そして、この運動は1997年より「100平方メートル運動の森・トラスト」と発展し、運動地にかつてあった原生の森と生態系の再生を目指した取り組みを1口5000円の寄付で続けています。

寄付をした人の名札を運動当初は上の写真のように外に置いたのですが、年の経過で傷みが激しいので、現在は写真の正面1枚を残し、「100平方メートル運動ハウス」室内で展示しています。約5万人の中に我が一家の名前もあります。

今は生態系を原生の森に戻すため植樹したところが順調か、今後どのようにすれば原生の森になるかの調査、研究を続けています。

また砂防ダムで変化してしまった川の生態系を何とかしたいと国交省と話し合いをしながら、魚道を作る努力をしています。魚道を作っても、その前後でどのように魚の種類が変わったかの調査も必要です。

そのほかに、観光客の対応も大変です。狐どころか熊にまで餌をやる人がいるのですから。などなど、まだ少し知床のことをお話していきたいと思います。知床を知って、応援してください。

～ 古民家あれこれ ～

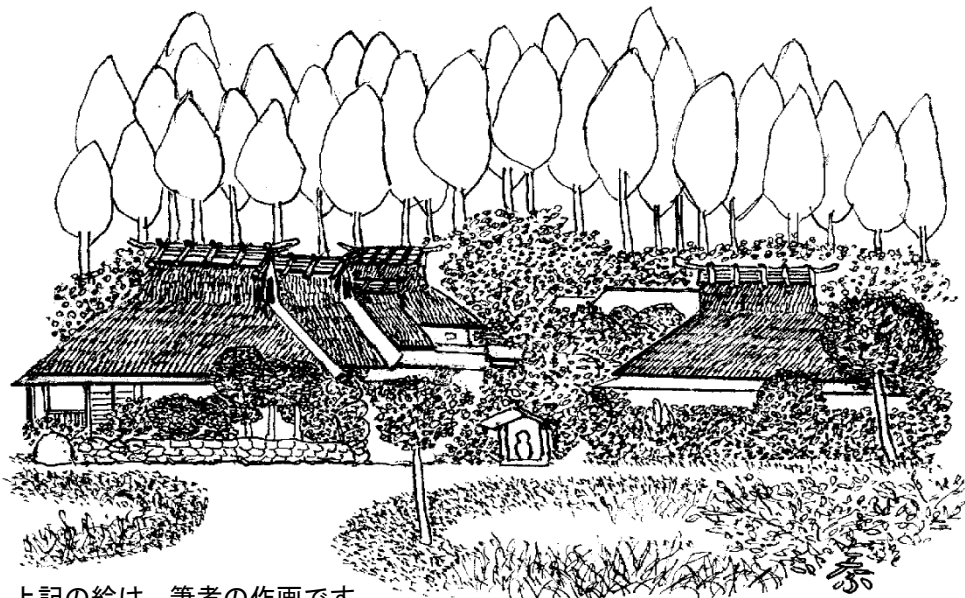
< 美山かやぶきの里を訪ねて >

千里山西 中野直衛

(日本民家集落博物館ボランティア)

昨年は錦秋のひとつき、美山かやぶきの里を訪れる機会をもった。

若狭湾に注ぐ由良川の上流地域で、地区内を鯖街道が通る南丹市美山町北地区は、京都府内のほぼ中央に位置する。その佇まいは周囲を山々に囲まれ、南に由良川の清流をのぞみつつ、雛壇状の傾斜地に寄りそうように茅葺民家が連なる。そこでは現に日々の暮らしが営まれ、正しく日本の原風景たる景観を呈している。現存する茅葺家は 39 棟に及び、中には築 250 年の歴史を経た古民家もあるという。こうした景観から、同地区は、ご案内の通り平成 5 (1993) 年 12 月 8 日に重要伝統的建築物群保存地区 (重伝建地区) に選定された。



注記：上記の絵は、筆者の作画です。

夏涼しく冬暖かいといわれる茅葺屋根を維持するために、集落は共同の茅場と保管倉庫を備えている。そして、葺き替え作業については、美山茅葺株式会社がその役割を担っている。

当該保存地区選定の背景としては、昭和の終わり頃から平成にかけての故郷回帰への時代的思潮や、住民の意識と外部からの美山に寄せられる期待の高まりがあり、幾多の困難さをも克服しつつ順次に進められていったという。今日それらは、北村かやぶきの里保存会の運営、継続的な茅葺替、共同採取茅場・茅保管庫の運営のほか、集落保存センター(食事処)、土産物処、美山民俗資料館、民宿、ちいさな藍美術館、駐車場等の集客利便施設等の整備となってあらわれている。なお、防火対策設備として地区内に 62 基の放水銃(茅葺家以外分も含め)が各戸用に備えられ、裏山の中腹には貯水タンクを据え、非常時には集中的なボタン操作が可能となっている。通例年 2 回、一斉点検放水が行われる。また、「暮らすように旅をする」とのガイド・ツアー等を運営する美山観光まちづくり協会の活躍も見られる。

美山町北は、美しい山川などの自然景観と茅葺民家等の地域資源をもとに、時代に即応する観光的立地の観点に立ち、重伝建地区として、協創的に、売らない・壊さない・守り生かすとの憲章と保全理念を掲げ、取り組まれた集落でした。四季を通じての共同事業・イベントを次々と催し、地域づくりの一つのモデルたる当地域から、正に土の香る躍動する日本の原風景、郷土への心情を通じて、内外からの来訪者に感動生気を与えてくれるものを覚えさせられた。

美山の地かやぶき文化伝えきて

旅の心に故郷香らす (中野直衛)

【事務局よりお知らせ】

① 2023年度は理事、監事の改選期につき、立候補を受け付けます。

- ・任期 2023年6月17日開催予定の通常総会終了後より
2025年6月予定の通常総会終了までの2年間です。
- ・理事会は原則として月一回、毎月の第3土曜日午後開催しています。
- ・立候補受付期間 4月1日～4月10日
＜立候補受付 問い合わせ先＞

事務局 中村小夜子 Tel: 090-8375-0647 E-mail: k-kaigi@hotmail.com.jp

② 2023年度通常総会を6月17日(土)に開催する予定です。

詳細については、5月送付の議案書にてご確認ください。

③ 寄付のお礼

2022年4月1日から2023年3月21日の間に多くの方々から455,540円のご寄付を頂戴いたしました。心からお礼を申し上げます。

岡本智子 小田忠文 西川整子 奥田倫子 中井桂子 平田敏 村井弘二 川畑清美 伊藤昌一
瀬屋好治 塩谷和久 富淑子 金子誠一 武田啓子 武田義明 青木タミコ 木下嘉清 上田万吉
平軍二 茶園征也 有川佳代子 岩溪恭子 李道子 下村敬三 中野直衛 大橋文江 北川實
立木靖子 後藤紘海 越智清光 上村和功 ドリーマーぶくぶく (順不同)

以上31名と団体1件でした。ありがとうございました。



新しいパンフレットができました!!

～委員会に参加しませんか～

新しい環境会議の案内パンフレットを作りました。1部同封します。

裏面には、5つの委員会と1つのプロジェクトチームの活動を案内しています。

いっしょに活動してみませんか。ポリシーは遊び心を大切に、楽しんで活動すること。ちょっとのぞいてみたいという方も大歓迎!

事務局 090-8375-0647 まで

調べる 学ぶ 考える 提言する 行動する
ポリシーは、遊び心を大切に、楽しんで活動すること。いっしょに活動しませんか。

生きもの委員会
市内の自然環境や生きものを観察し、調査しています。調査結果をベースに、生態系や希少植物の保全に取り組んでいます。
●大木調査 1998年、2007年、2017年
●希少種の調査・観察会・保全活動
●レッドリストされた2021作成 など

生活環境委員会
地球温暖化や海洋プラスチックごみなど身近な生活環境問題について考え、アクションを起こし、新しいライフスタイルの提案をしています。
●神崎川同時プラゴミゼロアクション実施
●吹花遊び「お金のプラフト」実施
●エコアクション推進開催
●味噌上げ会開催 など

自然エネルギーすいたプロジェクト (SES)
多くの人たちとともに、公的施設の屋根に太陽光発電による市民共済発電所をつくっています。
●吹田ふくむ理髪共同発電所「ふくむ」の設置活動と発電量の管理
●設置した施設や地域との環境連携開催
●自然エネルギー関連施設の見学
講座開催 など

まちなみ委員会
吹田のまちの未来を考えてみませんか。ほかの市民団体との交流や市内探訪・施設見学などを通じて、まちづくりへの提案・提言をします。
●市内探訪・施設見学
●他市のまちなみ探訪や市民団体との交流 など

学習研修委員会
まちづくり・環境問題について学習会や研修会を開催しています。市や公民館、企業に環境講座などの企画提案をしています。
●環境講座「環境産業」開催
●公民館との協働 など

事務局
会の運営、委員会活動を支えています。
そのほかにも…行政や企業・大学などの協働を大切にしながら、提案・提言をしています。市の公的委員会などに参加しています。市民団体と協働しています。他団体と協力して活動しています。公民館・セミナーなどに、講師派遣しています。

会報委員会
年4回発行の会報誌で会の活動や環境情報を紹介しています。
●会報誌「吹田の郷(いっしょの郷)」発行
●IPやブログなどの作成・更新 など
<https://www.3.big.or.jp/sskk/sskk.htm>

プログラムはこちら

パンフレット担当 喜田久美子

【まちなみ散策会のご案内】

●景観探訪② 一北千里駅およびその周辺一 ～再開発が進む北千里～

- ・日時: 5月8日(月) 10:00～12:00 頃 雨天中止
- ・集合＆解散場所: 阪急北千里駅改札前
- ・申込先: 金指(かなさし)弘 (電話 090-6054-1767 メール kanasashi@sutv.zaq.ne.jp)
- ・締切: 4月24日(月)
- ・参加費: 会員: 200円 非会員: 300円 <集合時にお支払いください>